

玩具安全基準 20年ぶりの見直し 欧州委員会



欧州連合(EU)の欧州委員会は、中国製の玩具から健康に有害な物質が相次いで見つかったのを受けて、20年ぶりにEU地域内で流通する玩具の安全基準を見直す方針を固めました。欧州委員会はさらに中国政府に安全対策の徹底を要求しており、改善が見られなければ問題のある玩具製品について、流通規制を導入すると警告しています。

欧州委員会は今年度末をメドに新たな安全基準に関する法案を加盟国に提出する予定です。今回の見直しは、1988年に定められたガイドラインを見直す内容で、玩具に含まれる物質についての規制を大幅に強化すると見られます。問題となった中国製の玩具では、基準を超える鉛が塗料に含まれていたほか、幼児が飲み込むと健康に被害をもたらす恐れのある磁石が含まれていました。

欧州議会は基準を満たさない玩具を持ち込んだメーカーに対する制裁措置を設けるよう欧州委員会に求めています。危険な玩具などに関する加盟国間の情報交換を強化する案も出ています。

欧州委員会はEU地域内での安全対策を強化するほか、中国政府に適切な安全対策を取ったかどうかの報告を要求しており、明確な回答が得られない場合、欧州委員会が問題があると判定した玩具製品について独自に流通禁止措置などの規制を適用する構えです。

当社では欧州玩具安全基準 EN71-Part3 や RoHS 指令などの規制項目をはじめ、有害金属の分析に実績があります。お気軽にお問い合わせください。

資料 2007年10月14日付 日本経済新聞

機器分析箇所 竹下尚長